

令和5年度 第2回 恵那市障がい者計画・障がい福祉計画策定委員会 会議録

日時：令和5年10月18日（水） 午後2時00分～3時45分

場所：恵那市役所西庁舎3階災害対策室A B

出席委員：伊佐地委員（委員長・会長） 横光委員（副委員長・副会長） 藤木委員
堀部委員 西尾委員 坂井委員 加藤（健）委員 小川委員 三宅委員 山邊委員
加藤（信）委員

欠席委員：遠山委員 早川委員 樋田委員 水野委員

事務局：恵那市社会福祉課 課長 沼田
恵那市社会福祉課 補佐兼係長 渡邊
恵那市社会福祉課 総括主査 大島
恵那市子育て支援課 担当係長 水野
恵那市社協障がい者相談支援事業所 相談員 渡邊
恵那たんぼぼ地域生活療育支援センター 相談員 青木
恵那市福祉事務所長 所長 古山
（株）ジャパンインターナショナル総合研究所 鈴木
（株）ジャパンインターナショナル総合研究所 高田

- 内容：1 開会
2 あいさつ
3 議題
（1）恵那市障がい者計画等策定のためのアンケート結果報告について
（2）第4次恵那市障がい者計画施策体系案及び第3次計画との対照表について
（3）恵那市障がい者計画第7期障がい福祉計画・第3期障がい児福祉計画骨子案について
4 その他
5 閉会

1 開会

事務局(課長)	定刻前だがお出席予定の方がお揃いのため令和5年度第2回恵那市障がい者計画等策定委員会を始める。まずは資料を確認する。1週間前に会議レジュメと資料1・2・3をお送りしている。これはアンケートの結果と骨子案である。本日机上に配布しているのはA3サイズの資料4、障がい者週間にかかるチラシ、恵那市社会福祉協議会の障がいのプロジェクトチームからいただいた本計画に対する意見書である。ご不足等はお申し出ください。 本日、事前に欠席連絡をいただいているのは従来名簿の2番、たんぼぼ福祉会の遠山委員、3番のウェルトピアきょうどうの早川委員、恵那保健所健康増進課の樋田委員、東濃成年後見センターの水野委員の4名である。また先回からお願ひしている通り、会議の公開に関して傍聴席を用意している。会議録もホームページに公開している。7月19日の前回会議もホームページに公開して
---------	--

	<p>いる。併せてコンサルタント業者の鈴木様と高田様の2名にお越しいただいて いるのでよろしく願います。 それではレジュメに従って会を進める。 まずは福祉事務所長兼健康福祉部次長の古山からごあいさつ申し上げます。</p>
--	--

2 あいさつ

事務局(次長)	<p>皆様こんにちは。本日は大変お忙しい中のご参集に感謝申し上げます。過ごしやすい季節になったが朝夕と日中との寒暖差が大きく、体調を崩しやすい時期である。皆様には体調にご留意いただきたい。本日は議題を3点用意している。7月19日の第1回目の会議にて、皆様にはアンケートの内容についてご審議いただいた。その内容を反映したうえで8月に調査を行い、その結果をまとめたものをご報告させていただく。</p> <p>2点目は次期計画との比較表である対照表を用意したのでこちらもご議論いただきたい。</p> <p>3点目は障がい者計画、障がい福祉計画の骨子案を作成した。こちらも皆様の忌憚のないご意見をいただきたい。よろしく願います。</p>
事務局(課長)	<p>委員会の議事は委員長に願うため、ただ今からは伊佐地委員長に願う。</p>

3- (1) 恵那市障がい者計画等策定のためのアンケート結果報告について

委員長	<p>これから会議を進める。よろしく願います。まずは(1)恵那市障がい者計画等策定のためのアンケート結果報告についての説明を事務局に願う。</p>
事務局	<p>資料1に基づき説明。 恵那市障がい者計画等策定のためのアンケート結果報告について</p>
委員長	<p>アンケートに新しく追加された項目について説明された。前回意見が出たものについて、それぞれ変更された点等はあるのか。</p>
事務局	<p>まずハローワーク所長の坂井委員から、介護者への設問は後ろにある方がわかりやすいとご提案いただいた件は、そのように変更した。</p> <p>また前は性別の表現についてたくさんご議論いただいた。7ページ問2の選択肢に男性・女性・回答しないという表現を使った。これは企画課が毎年実施している恵那市の市民アンケートの表現に倣ったものである。加藤委員からもご意見をいただいていたがこのように統一させていただいた。</p>
委員長	<p>前回会議で出たご意見はご説明の通り反映したとのことである。</p>

事務局	<p>101 ページ以降に、アンケートの自由意見のページに書かれたご意見を載せている。資料の 116 ページ以降に、手帳をお持ちの方用と一般の方用の実際のアンケートを貼り付けている。このアンケートが届いた方からいただいた自由意見を分野ごとにまとめたものである。当事者・保護者がこれまで言う機会がなかった貴重なご意見をご記入いただいたものである。委員の皆様にもぜひ読んでいただきたい。電話や広報えなのハガキで市役所へ意見を届けるのはハードルが高いが、このアンケートをきっかけにたくさんご意見をいただいたようである。率直に受け止めていく。</p> <p>この中に教育・医療等様々な分野へのご意見があるため庁舎内でも共有し、汲み取りながら次回会議で議論する施策の中身に反映していきたい。</p>
委員長	<p>この自由意見も含めたアンケートの結果報告について、質問があればお願いします。私から質問する。</p> <p>12 ページの問7の設問の下に「〇歳頃」との記載があるがよくわからない。</p>
事務局	<p>うしろの調査票を見ていただきたい。116 ページの左側の下にある。この回答の選択肢が、「1 生まれた時」、「2 〇歳頃」、「3 不明・わからない」となっており、2の回答が年齢を記入する形になっている。これは数字のゼロではなく、いろいろな数字が入るという意味の丸である。</p> <p>その記載された年齢によって、12 ページの下に7～17 歳、18～39 歳と内訳を集計されている。</p>
委員長	<p>「〇歳」はそれぞれの年齢のことだと理解できた。</p>
事務局	<p>ゼロと誤解されやすいことをご指摘いただいたので、工夫する。</p>
委員長	<p>検討をお願いします。</p> <p>ほかの方に質問がなければもう1点私から質問する。</p> <p>26 ページの問 19「通学していて特に困っていることがありますか。」の表は、全体が80人なのか。</p>
事務局	<p>こちらは通学に関する設問のため、対象者が18歳以下の障がい児である。</p> <p>2ページの配布・回収に関する事項を見ていただくと、障がい児の対象者として200人に配布している。その表には回収件数と回収率のみで内訳が記載されていないが、80人からご回答をいただいた。その80人のことである。</p>
委員長	<p>26 ページの表には「通学するのが不便」が8人、「授業についていけない」が12人とある。その下に身体障がい者、知的障がい者、精神障がい者がある。これらの合計にはならないのか。</p>
事務局	<p>「授業についていけない」の全体が12人なのに、身体・知的・精神を合わせて12人になっていないとのこと指摘か。</p>
委員長	<p>3種の障がい以外に何か障がいがあるのかお伺いしたものである。</p>
事務局	<p>障がい児福祉サービスは手帳を持っていなくても受けられる。そのため手帳を持っていない子が9人いるという意味である。</p>
委員長	<p>そうであるなら「授業についていけない」と回答した子のほとんどは手帳を持っていないということか。</p>
事務局	<p>そうである。</p>
委員長	<p>合計数が合わなければ人数を出してもわかりづらいのではないか。</p>

事務局	この表にはもう1段「障がい児福祉サービス利用」の欄を設ければ、9人を入れると合計人数が合う。
事務局	例えば身体障がいと知的障がい等、障がいが重複しており、1人で手帳を複数持っている方もおられる。
委員長	それでは12人が合計すると16人や17人になることもあるということか。
事務局	そうである。
委員長	合計数の合わない表はわかりづらい。
事務局	12人の内訳は手帳を持っていない方の段をもう1段設ける。
委員長	27ページの表も全体数が43人なのに対して下の合計数は4人となっており、9割の方はどういう人なのか疑問であった。
事務局	「お一人一回答」であれば必ず80人になるが、設問を見ていただくと26・27ページとも「○はいくつでも」と書かれている。1つしか選択されない方・複数選択される方等まちまちである。
副委員長	問20は1つのみの選択である。
事務局	問20は1つだが、問19は複数回答可である。
委員長	設問の方をよく見ていなかった。もう少しわかりやすい数字が出てくるのかと思っていた。 例えば27ページの表を見ると「進学したい」という子が43人いる。そのうちの身体障がい1人、知的障がい1人、精神障がい2人の4人はわかるが残りの39人の方はどういう方なのか。
事務局	福祉サービスを利用する方は、必ずしも手帳を持ってないといけないわけではない。200人のうち、手帳を持たないがアンケートに回答している方もおられる。
委員長	手帳を持たない方がほとんどであるという理解でよいか。
事務局	その通りである。
委員長	ようやく理解できた。
事務局	200人に配布して80人から回答があったうちの、手帳を持っている方が限られているということである。少しわかりにくいいため、設問と回答を見ただけでそれが理解できるようにできないか。
事務局	回答者の中の何人が手帳を持っていないのかは判別できないため、「この回答の中には手帳を持っていない方もいる」との注釈をつけるように考える。
委員長	ほかの委員の方はどうか。何か質問はあるか。

委員	<p>質問ではないが意見を述べる。</p> <p>私は今、障がい児の施設にいる。先ほど来年度の施策の説明の中にペアレントトレーニングの話があった。知らない方が8割で、今後の施策の中でペアレントトレーニングを身近に受けられるようにするとのご報告だった。これまでの実績は、にじの家・おひさままでの3人～4人とのことだった。私どもの事業所でも保護者の方に子どもの理解や声掛けの仕方等を伝えていくことはとても有効な手立てだと思っているが、民間の事業所では営業時間の中で実施することは難しい面がある。保護者の方がお子様連れだった場合の託児、場所等様々な問題があり、実施したくてもできない状況がある。恵那市内には他にも民間の事業所でペアレントトレーニングを実施しているところもある。このアンケート結果等を見ても、情報を提供して欲しいとの声がたくさん上がっている。恵那市内の障がい児に関わる子ども部会等で、行政と一緒に地域の中でそのような事業が展開できるというと常日頃考えている。私も一緒に関わらせていただくと嬉しい。この場での提案でいいのかわからないが、そのようなことも検討していただきたい。よろしく願います。</p>
事務局	<p>子ども発達センターの「にじの家」と「おひさま」は保護者による送り迎えが原則であるため、利用時間の1時間の中で行えた。しかし民間の事業者では送迎付きであるため託児の問題がある。今後考えていく。</p>
委員長	<p>ほかの方から何かあるか。</p>
委員	<p>質問ではないが、アンケートに回答した立場からの感想を述べる。とても大変だった。わが子は18歳以上の対象者だが、子どもだけで答えられないものが多いため、本人が答えられるよう設問内容を噛み砕いて説明した。量もとても多かったというのが率直な感想である。</p>
委員長	<p>自由意見の回答にもアンケートの項目が多すぎて答えるのが大変等同様の声があった。</p>
事務局	<p>実際に「最後まで答えきれかわからない」とのお電話もいただいた。確かに聞きたいことが多く、増やしているうちに前回以上のボリュームになってしまった。こちらの「この機会にしっかり聞き取ろう」との意欲が過ぎ、答えていただく方々にご負担をかけたことは反省している。6年後にアンケートを実施する際にはこの声を引き継いでいく。</p>
委員長	<p>それだけ障がい者の方々の置かれている現状を把握したい気持ちの表れだろうが、あまりにご負担をかけることは控えていただきたい。</p> <p>アンケートの結果報告についてほかにも何かご意見はあるか。</p>
一同	<p>《質問なし》</p>
委員長	<p>続いて(2)の第4次恵那市障がい者計画施策体系案及び第3次計画との対照表についてと、(3)の恵那市障がい者計画第7期障がい福祉計画・第3期障がい児福祉計画骨子案について、は関連しているため一緒に事務局から説明をお願いする。</p>

3-(2) 第4次恵那市障がい者計画施策体系案及び第3次計画との対照表について

3-(3) 恵那市障がい者計画第7期障がい福祉計画・第3期障がい児福祉計画骨子案について

事務局	資料2・資料3・資料4に基づき説明。 第4次恵那市障がい者計画施策体系案及び第3次計画との対照表について 恵那市障がい者計画第7期障がい福祉計画・第3期障がい児福祉計画骨子案について
委員長	ありがとうございます。議題の(2)と(3)について今説明を受けた。何かご意見があれば発言をお願いします。
副委員長	特別支援学校の状況について、19 ページに小学校・中学校それぞれの特別支援学級数・児童生徒数の推移が出ている。20 ページの上部には、特別支援学級の児童・生徒数の推移の表がある。 先ほどのご意見にもあったが、このそれぞれの表の数字の読み取り方がよくわからない。20 ページの表の知的、自閉・情緒、難聴、肢体不自由ごとの数字と児童数の見方、並びに 19 ページの表の児童数のトータルとどう関連付けて見比べればいいのか。 なおかつコメントでは「中学校の自閉・情緒クラスの人数は増加しています。」と記載されている。たしかに5人、6人、8人になっているがこれを増加と言えるのか。
委員	おそらく 19 ページの表はシンプルに学年ごとの児童数であるのに対し、20 ページはクラス別の数である。これが一致していないためわからないのだろう。
事務局	コンサルタントからいただいた調査票では、20 ページのこの数字は単位が「クラス数」であった。19 ページの単位は「人」で構わない。
副委員長	では「児童数」は不要である。学級数と知的・自閉等それぞれのクラスが 10 クラスや9クラスということでもいいか。
事務局	19 ページの「人」という漢字が不要である。そもそも「知的クラス」等と書かれており、クラスとして平成 30 年度の「知的クラス」が 10 クラス、「自閉・情緒クラス」が 9 クラス、「難聴クラス」が 0 クラス、「肢体不自由クラス」が 0 クラスということである。単位が間違っていた。 それから委員にご指摘いただいたように中学校は「児童」ではなく「生徒」である。
副委員長	学級数が出ているのでそもそも児童数・生徒数欄は不要である。
委員長	今の 20 ページの「児童数」と「生徒数」の部分は削除になるのか。その下の「～クラス」は学級数ということでもいいのか。
事務局	「人」という単位はそのままクラスに読み替え、児童数・生徒数の欄については削除するよう改める。
副委員長	このアンケート結果について、相対的には少ないにもかかわらず2人程度増えたことを「増加」と表現しているが、前年と同じだが「増加」としてどう評価するのか。増加にはどのような背景があり、どう対策していくのかについては今後の施策での検討になるが、コメントに「増加している」と記載してしまうことに違和感を覚える。
事務局	この部分はシビアな表現になると考えられるので、担当課である学校教育課に「増加」という表現が正しいのか、「横ばい」の方がいいのか確認する。ご意見

	に感謝する。
委員	<p>ここの数字が人数ではなく学級数であるなら、5年前に比べて3学級増えているということである。このあたりは確認の必要がある。</p> <p>それと資料2について意見を述べる。今回、基本的方向を「障がい福祉サービス」ではなく「障がい福祉サービスの充実」とし、方向性を示す言い回しに改善された。このような細部の見直しがなされることはとてもいいことである。これから次回会議で示される骨子案が具体的内容に入るのだろうが、これは事務局案について我々が意見を出すのだと思われる。私はいくつかの他市の計画策定委員会にも参加しているが、いずれの市も回収率が50%未満である。特に障がいのない方のアンケートは30~40%程度である。これは日本国民にとって障がい福祉がまだまだ他人事であることを認めざるを得ない。アンケート結果にも学校教育の必要性についての回答があったが、やはり普及啓発に関しては、今後しっかり取り組むべきことである。個人的にはそこをしっかりと考えていただきたい。</p> <p>それから先ほど学校教育で5校を対象に9万円の補助金を支給しているとのことであった。とても大事な取り組みであるが、学校教育が取り組むのはパラリンピックや車いす、ポッチャ等目に見えるものに偏りがちである。私は日頃精神障がいの方の支援をしているが、これからの時代は小中学生の間にメンタルヘルス（心の健康）に触れておくことがとても大事になるのではないかと。障がい福祉教育でバランスよく取り組んでいただきたい。</p> <p>私自身は時々瑞浪市の中学校で心の健康について講演させていただいている。中学生は多感な時期でもあり、とても反応がいい。ぜひメンタルヘルスにも焦点を当てていただきたい。</p>
事務局	<p>ご意見に感謝する。実際に指定校を訪問すると学校側から「何に取り組めばよいのか」とご質問いただく。委員による講演会ご案内しておくのでご協力よろしく願います。小中学生には不登校も多いことは新聞等でも周知の事実である。早期発見・早期対応が必要であり、ぜひ1つの講座として来年度の指定校にお勧めしたい。</p>
委員長	ほかの委員から何かご意見はあるか。
委員	<p>38 ページに障がい者団体の意見が掲載されている。今年は各団体にじっくりとお話を聞いていただき、とてもありがたいと思っている。しかし団体として、今これを大事にしているということは他にもある。私が関わっている中で今回ヒアリングを受けたのは、知的障がい児・者の育成会と恵那市の障がい児・者の生活を豊かにする会だが、それぞれの会で今重点として大事にしていることとは少し異なるものが意見として掲載されている。これらは色々話した中の一部分のみで誤解される可能性があり、再考の余地があるというのが個人的な意見である。</p>
事務局	ご意見として違う形での掲載なら可能か。
委員	<p>各団体でいろいろな話があった中で、市が骨子案に関連するものをピックアップしたものが掲載されているものと存じる。しかし、例えば恵那市知的障がい児・者育成会の意見の「知的障がいは、その子の能力を如何に伸ばせるか、観察等が必要だ。」等は違和感がある。</p>
事務局	同感である。それではヒアリングした各団体様に、掲載のご意見について確認

	し了承を得るようにする。これは6年間残るものである。また団体名も出てPRにもなるものである。修正があれば字数制限付きで校正をお願いする。
委員	一部抜粋とあるが、ここは本来どのような意見を掲載する部分なのか。本当にその会が大事にしている周知したいことを載せる部分なのか。
事務局	6年前は団体の紹介として掲載していた。今回も同様にしよう変更する。
委員長	各団体が一番周知したいことが掲載されるように構成の再考をお願いする。
事務局	再度各団体に意向を確認する。次回会議にてまたご報告させていただく。
委員長	ほかにご意見はあるか。
副委員長	22 ページの上段の表では、施設入所者数の目標値が 63 人、実績値が令和 3 年度 62 人、4 年度 61 人、5 年度実績見込みで 59 人となっている。一方 27 ページの上段の居宅系サービスの利用状況の表では、施設入所支援の令和 3～5 年度の計画値と実績の数字が異なっている。これはどのように見ればいいのか。
事務局	令和 4 年度では 27 ページの施設入所支援数は令和 5 年の 3 月に利用した人の数のことである。施設入所支援の施設を利用した方が、3 月分の計画値は 62 人で実際に利用した方は 59 人だったということを表している。
副委員長	実際の入所者数ではないということか。
事務局	3 月の実績ということである。
副委員長	令和 4 年度を例にとると、27 ページで施設入所支援を行ったのは計画値が 62 人で実績が 59 人となっているが、22 ページの入所者数とは誤差があるということか。支援をしたことと入所者数との違いは何か。
事務局	令和 3 年度の数字はあっているが 4 年度は、異なると言っておられるのか。
副委員長	施設入所支援と施設入所者数は同じ意味ではないのか伺っている。
事務局	令和 3 年度はどちらも 62 人だが、4 年度は 22 ページでは 61 人で 27 ページでは 59 人になっているとのご指摘だとわかった。
委員	定点観測と実績観測で異なるのではないか。22 ページの表はおそらく令和 4 年 3 月 31 日時点の施設入所者数を表しているのではないか。例えば 3 月 31 日時点に入院中で籍がまだ施設にあればカウントしているのではないか。
事務局	たしかに 27 ページの方は「3 月分」となっている。
委員	27 ページの表は 3 月中のサービス利用の有無で、22 ページは 3 月 31 日時点での施設の籍の有無となっており、軸が異なるのではないか。
事務局	時点と 1 か月中というように、抽出の仕方が異なるのかもしれない。そのあたりも併せて次回会議にて報告する。
副委員長	27 ページの計画値は 62 人だが、22 ページの目標値が 63 人でいいのか。
事務局	今、委員が発言された通り、22 ページは「年度末時点では」と表現されている一方、27 ページは「3 月分」とされ、時点と 1 か月間の利用者数との誤差の可能性はある。一度確認する。
委員長	注釈をつける等、整合性のとれたわかりやすい骨子案になるようお願いする。 私から 1 つ質問する。 31 ページの日常生活支援事業について、「訪問入浴サービス事業、日中一時支援事業のいずれも計画値を上回っており、利用が増加しています。」と書かれて

	いるが、表の数値では計画値を上回っていないのではないか。確認をお願いします。
事務局	いずれも計画値を下回っている。表現を訂正する。
委員長	ほかの委員から何か意見はあるか。 事務局からもないか。それでは議題の1～3を終了した。 議題の4のその他について事務局から説明をお願いします。

4 その他

事務局	当日配布資料「恵那市障がい者計画等に対する意見書」に基づき報告
事務局	桜色のチラシと緑色の資料に基づき説明。

事務局(課長)	<p>今の2点について何かご意見やご質問はあるか。</p> <p>本日用意した議題は以上である。委員からご意見や情報提供等はあるか。長時間にわたるご議論に感謝する。</p> <p>ここで少し前回会議の7月19日以降の3か月間で、恵那市の障がい者福祉に関わるトピックを紹介する。</p> <p>7月21日にユニバーサルマナー検定を行った。これは市の若手職員を中心とした30名を対象に株式会社ミライロから講師を招き、障がい者等に対する接遇・応対マナーを学んだ。半日の検定で、私自身も出席したが声掛けの仕方1つ1つがとても大切だと学んだ。無理して声をかけない・できることを伺う等である。本日報告したアンケートの自由記述にも「白杖を使っている方に声を掛けたら怒られた」等辛辣なご意見もあった。「お互い様」の心持ちが大切だと学んだ次第である。</p> <p>また8月23日には例年通り、障がい者団体連合会の皆様から市長への要望をいただいた。環境面や制度面等いろいろな意見をいただいている。また1つ1つ解決に努めたい。</p> <p>9月9日にはボッチャの交流会があった。障がい者の方々が文化・スポーツ・芸術に参加することについて考える中で、ボッチャ大会を企画したものである。各施設・団体から13チーム61人の参加があり盛大に開催することができた。</p> <p>また、恵那市出身の障がい者スポーツ選手が、水泳競技の県大会にて自由形と背泳ぎの新記録を出して優勝された。現在鹿児島県で国体が行われているが、今月末からは障がい者の国体が始まる。そこに県代表として古山沙奈美さんという女性の方が出席される。</p> <p>またさきほどのOriHime等、社会参加のしづらい方や就労の難しい方に対してテクノロジーで何か解決できるような知恵が出ないか挑戦してみる所存である。皆様もよろしければ見ていただきご意見をいただきたい。</p> <p>個人的感想だが、アンケートの自由記述にたくさんのご意見をいただいた。中身をよく読むと、発達に遅れのある子どもを育てる保護者様の強い声や親亡き後というテーマのご意見もたくさんあった。特にレスパイトを目的としたデイサービスやショートステイ利用については喫緊の課題であると感じた。</p> <p>また、藤木委員からもご意見があったが、バリアフリーやユニバーサルデザイン等障がい者への差別解消に関わるご意見、それから特別支援学校の卒業後に関するテーマへのご意見の4点が特に多かったと感じている。この辺りを中心に今後の6年間でできる限り対応できるような計画の組み立てを考えていく所存である。またご意見をいただきたい。</p> <p>最後に横光副会長からごあいさついただく。</p>
副委員長	<p>長時間お疲れ様。このアンケートに答えていただく方は大変なご負担だったとお察しする。その大変さを受け止めながら骨子案にまとめていただいております。今後の計画にどう生かしていくのかは、私たちに課せられた大切な役割である。また次回以降具体的な検討をよろしく願います。</p> <p>私の雑感になるが、今朝の新聞各紙に愛知県のグループホーム「株式会社恵」の食材費の不正徴収が取り上げられていた。もっと以前から話題にもなってい</p>

	<p>たが、ここは全国展開をしており、岐阜市にも利用者がおられた。現在岐阜県はグループホームを増やすことに重点を置いた施策に取り組んでいるが、昨今民間業者も参入しやすくなっている。特に都市部では住宅会社がアパート等を建てて、NPOや社福のグループホームに提供する形が増えており、障がいのある方が地域で独立・自立して暮らしたいという思いを逆なでするような事件も起こっている。これは経済的虐待に該当するというコメントもあった。その一方で恵那市では、まだまだ不足している現状である。財政・予算も限られた中ではあるが、総論的に見ながらも今後6年間という計画、また3年間でどれだけの事業を計画していくのかをしっかりと見定めていく。一方、アンケートでいただいた生の声や団体様の言いたかったことをくみ取りながら進めていく必要がある。このアンケートを見て気になったのは、当事者の方々がまだ自分たちが理解される社会になっておらず過疎で情報も届いていないことである。スマホは持っているがアプリが入っていない等のアンバランスが存在する。やはりそういうところをしっかりとサポートできる体制があれば、情報面でも皆が活用できる。先ほどロボットの話もあったが、今はこのような時代でもあるので今後ぜひ活用いただきたい。これからの計画の柱となる人権を大事にするべきである。合理的配慮と言われるが、一般社会参加をする際、また就労の際に自分たちはまだまだ理解されていない、社会参加を阻むバリアが高いというアンケート結果もあるようである。そここのところを私たちもこれからの計画の中にぜひ生かして行きたい。これからもよろしく願います。本日はお疲れ様。</p>
事務局(課長)	以上で閉会する。また次回ご案内する。よろしく願います。